茨木市立　太田　中学校　全国学力・学習状況調査分析結果

令和４年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

**（領域ごと）**

①言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった

②情報の扱い方に関する事項　　　　　　 　　 概ね良好な結果であった

③我が国の言語文化に関する事項　　 　 　 概ね良好な結果であった

④話すこと・聞くこと　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

③書くこと 　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

④読むこと 　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

①選択式　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　 概ね良好な結果であった

②短答式　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　 概ね良好な結果であった

③記述式　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　 概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　　　　 　　　 概ね良好な結果であった

**（その他）**

学校の特徴的なことについて記入

・もっとも正答率の高かった設問　　　漢字の行書の読みやすい書き方

・もっとも正答率の低かった設問　　　行書の特徴を理解している

・もっとも無解答率の高かった設問　 自分の考えを表現する

・もっとも無解答率の低かった設問　　書写の各問など

○●数学●○

分析

全体の平均正答率は、概ね良好な結果ではあった。しかし、記述式の問題に関しては、正答率は全国平均を少し下回る結果ではあったが、同時に無解答率は上回る結果であった。特に、１三の自分の意見をまとめて答える問題については前年度に引き続き、自分の考えをまとめて伝えることや、文章にすることが苦手な生徒が多いことが分かった。また、生徒の普段の様子からも、記述式の問題に抵抗感が強く、粘り強くとりくむことに課題がみられるので、今後は書く力を伸ばすためにも、書くことへの意欲を高めるとりくみに力を入れて行きたいと考える。

**（領域ごと）**

①数と式　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

②図形　　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

③関数　　　　　　　　　　　　 　　　　良好な結果であった

④データの活用　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

①選択式　　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

②短答式　　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

③記述式　　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　 　概ね良好な結果であった

**（その他）**

中学校用

**基礎資料②**をもとに記入する

学校の特徴的なことについて記入

・もっとも正答率の高かった設問　 　確率の問題

・もっとも正答率の低かった設問　 　筋道を立てて説明する問題

・もっとも無解答率の高かった設問 　筋道を立てて説明する問題

・もっとも無解答率の低かった設問 　変化の割合、確率など

学校の特徴的なことについて記入

　　　　・もっとも正答率の高かった設問

　　　　・もっとも正答率の低かった設問

　・もっとも無解答率の高かった設問

　　　　・もっとも無解答率の低かった設問など

**分析**

評価の観点別での結果は、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国・大阪府の平均正答率を上回った。領域では、「数と式」「図形」「関数」については全国・大阪府の平均正答率を上回ったが、「データの活用」においては下回った。また、問題形式においても選択式の問題が全国平均を上回っているものの、比較的低い結果となっているので、資料や、文章を読み解くことに課題を感じる。

さらに、説明をする問題や、説明の穴埋めをする問題では、正答率は全国平均を上回っているが、無解答率においても全国平均を上回っており、課題がみられる。正答を記入できる生徒がいる一方で、短答式や記述式の問題を苦手とする生徒も見受けられる。

○●理科●○

**（領域ごと）**

①エネルギー 概ね良好な結果であった

②粒子　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

③生命 概ね良好な結果であった

④地球　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

①選択式 概ね良好な結果であった

②短答式 やや課題が残る結果であった

③記述式 概ね良好な結果であった

**（無解答率）** 概ね良好な結果であった

**（その他）**

中学校用

**基礎資料③**をもとに記入する

学校の特徴的なことについて記入

・もっとも正答率の高かった設問 　 化学変化に関する問題

・もっとも正答率の低かった設問 　力の働きに関する問題

・もっとも無解答率の高かった設問 　考察の妥当性を高める

・もっとも無解答率の低かった設問　　電流や気象とその変化など

学校の特徴的なことについて記入

　　　　・もっとも正答率の高かった設問

　　　　・もっとも正答率の低かった設問

　・もっとも無解答率の高かった設問

　　　　・もっとも無解答率の低かった設問など

○●経年比較●○

**分析**

全体の評価としては概ね良好な結果であったが、全国平均を下回る分野が多く、課題の残る結果であった。短答式の問題に関しては、問題の意味を正確にくみ取れておらず、どう答えていいのかを理解しきれていない解答が多くみられた。

また、エネルギー分野の正答率において全国平均を下回っており、より深く理解できるよう、今後しっかり（授業を通して図やグラフを読み解く力を育むことができるよう・・・等）指導していく。

地球分野についても全国平均を下回っており、今後、動画等のICTの活用や観察の機会を増やす等の実感できる機会をより設けることで、興味を高められるよう指導していく。

粒子分野や生命分野については全国平均を上回っているが、 より深い理解をうながせるよう、今後丁寧に指導していきたいと考えている。

全体的な傾向についての分析

　令和3年度と比較すると、平均正答率は上昇傾向にある。過去3年間のデータを見ると、大きな変動はなく推移していると言える。

　また、無解答率については、年度による多少の増減はあるものの、過去3年ではやや上昇傾向にある。

学力高位層とエンパワー層についての分析

過去数年で見ると、学力高位層は増加、エンパワー層は減少傾向である。

教科や学年で取り組んでいることが一定の成果を出していることの表れであると考えられる。さらに、エンパワー層については学習意欲を高めるために生活に密着した事項を取り扱うなどしていく必要がある。それぞれの生徒の実態に応じた学習へのアプローチが継続して行えるよう、引き続き取り組みを続けていく必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

学力保障の基本として、「授業」の充実を第一に考え、日々の取り組みの中から学力向上へとつなげることをめざしている。

放課後学習室の開放

学習場所(落ち着いて学習に臨める環境)を確保するため、学校の図書室を学習室として開放し(週3日程度)、どの生徒も活用できるようにしている。課題にとりくむため、少し空いた時間を有効に活用しようと生徒が気軽に来室し、学習に取り組める場所として有効に活用できている。

　授業交流週間の設定

　「主体的に学習に取り組む態度を授業内でどのように実践するか」など、学力向上のための課題設定をし、どの授業でも参観、交流できる期間を設け、教員間で相互の研鑚をめざしている。交流内容を全体でも共有し、共通して問題意識を持つことで意識向上につながっている。

　教員向け学習会

　学期末に学習会を実施し、その学期の学習評価について振り返ったり、テーマを設定して意見交流したりして教員の意識向上を図っている。共通して持つ授業についての疑問や相互の取り組みを知ることで、次の学期からの授業へのヒントを得られる場となっている。